

第 30 号
国立市北2-4-28
能味寿哉 75-7110
印刷 (株)J・P・S

箱根駅伝優勝祝賀会に出席して

支部長 能味寿哉

今年正月の第七十二回箱根駅伝で我が母校は三十二年ぶりの悲願の総合優勝を果たした。

その興奮も冷めやらぬ二月二十七日(火)箱根駅伝優勝祝賀会が京王プラザホテルで盛大に執り行われた。

優勝旗とカップが会場の注目を集めるなか、多昌博志氏(日本テレビアナウンサー)の司会で開会が宣言されると、選手たちが入場。陸上競技関係者、大学関係者、学員、招待者、およそ千三百人の出席者から大きな拍手が送られた。

まず高木友之助総長が挨拶。「中央大学を日本一にする構想を駅伝が果たしてくれた」と選手並びに関係者へ感謝の辞が述べられた。

ついで鏡開きに移り、壇上に置かれた四斗樽二個がヨインシヨの掛け声で開かれた。乾杯の音頭は大西学員会会長。「勝利の喜びを噛みしめて心からの乾杯を!」と杯を掲げると

会場のあちこちから「おめでとー」の声、会場を埋めた出席者が一斉に乾杯を唱和して歓談に入った。

場内には箱根駅伝の栄光の記録フィルムが上映され、会場の雰囲気はますます盛り上がった。

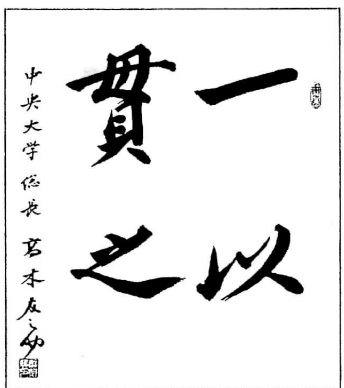
次に国会白門支部長の中山正暉氏は「母校の優勝を光栄に思う」と祝詞を述べ、真田陸上競技部部長が「優勝は皆さんのご支援の賜物」と感謝の辞で応えた。ついで司会者より石部安浩副部長、木下澄雄監督、大志田秀次コーチと各選手が紹介され、木下監督が代表して挨拶。尚、木下監督は大学学事課に勤務され、国立市での「中央大学学術講演会」開催には大変お世話になっ

国立支部からは私の他に堀田勲君、風間俊範君、平本聖子さんが参加し、選手とも歓談しました。また、市橋千鶴子学員会副会長(国立支部顧問)も会場のあちらこちらで出席の学員各位と親しく歓談されておりました。

最後に応援部員、チアリーダーによる演舞により、校歌、応援歌を斉唱。「会場から来年もまた会おう」と大きな声があがった。



中央大学
第72回東京箱根間往復
大学駅伝競走
平成8年1月2日・3日
総合優勝記念



中央大学 優勝の記録

- 第一回優勝：第七回 (大正五年)
- 第二回優勝：第四回 (昭和三年)
- 第三回優勝：第六回 (昭和五年)
- 第四回優勝：第七回 (昭和六年)
- 第五回優勝：第五回 (昭和八年)
- 第六回優勝：第三回 (昭和三年)
- 第七回優勝：第三回 (昭和三年)
- 第八回優勝：第五回 (昭和四年)
- 第九回優勝：第六回 (昭和五年)
- 第十回優勝：第七回 (昭和六年)
- 第十一回優勝：第八回 (昭和七年)
- 第十二回優勝：第五回 (昭和八年)
- 第十三回優勝：第四回 (昭和九年)
- 第十四回優勝：第七回 (平成八年)

第七回箱根駅伝

- 中央大学十八学子の記録
- 第一区 一位 第六区 一位
 - 第二区 二位 第七区 一位
 - 第三区 六位 第八区 一位
 - 第四区 二位 第九区 一位
 - 第五区 二位 第十区 一位

中央大学「学術講演会」を後援

聴講者からの意見、質問

多く、大幅時間延長

昨年、十一月十二日(日)国立市公民館において国立市教育委員会の後援を得て理工学部教授 岸 信行先生をお迎えして標記講演会が開催されました。演題は最近大きく社会問題となっている中学校での「いじめ」問題をとりあげていただき、

《いじめ自殺とその周辺》一家庭、学校、社会の役割と題してご講演をいただきました。当日は現職の先生、教職にあつたOBの方、小中学生の子供のお母さん方、教職課程に学ぶ大学生、青少年協議会の方など大勢の方々が出席され、岸先生の熱のこもった迫力のあるお話にうなづきながら熱心に聴講いたしました。

自殺した愛知県の大河内君や東京都中野区の鹿川君の実例の中で自殺に至るまでの悲惨な経過を詳細にお聞きして私たちは愕然としました。

遊びか、いじめか見分けがつかなかったと言いつく先生の場合には「葬式ごっこ」のいじめに先生までが加担していたという人間としてあるまじき行為などは私たちに大きなショックを与えました。



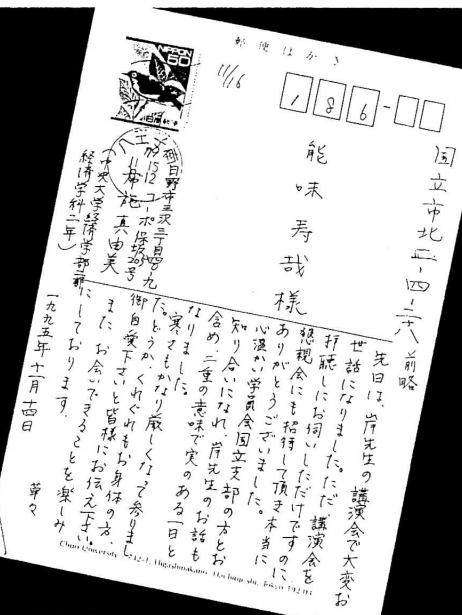
先生の講演が一通り終了した後、聴講者から意見、質問が次々に出て司会者がその整理に大忙しの状況でした。今回の感慨深い有意義な講演は当日ご出席の皆様だけにとどめず、各方面で活躍する大学OBを通じて、教育委員会、学校の先生方にも録音テープを聞いていただき、いじめ問題の解決策、対応策として参考にしてください。最後は今回の講演会を主催していただいた大学当局、また岸先生に心から感謝いたします。

事業部長 風間 健

講演会に出席した女子学生から お便りが届きました

今回の講演会には上記のごとく色々の方が出席されましたが、その中に中央大学の女子学生二名が参加していただきました。講演会終了後に岸先生をかこんでの懇親会が予定されておりました。

いしましたところ、こころよく同意をしていただき、懇親会を大いに盛り上げていただきました。先輩のおじさんたちも上機嫌どうもありがとうございました。そんな二人から支部長宅にお便りが来ました。



佐々木由香さん

布施真由美さん

十月十日体育の日 「くにたちウォーキング」 に参加

好天に恵まれた体育の日、第三公園を起点に我が会員の面々は、キロの道程を参加者約千名と共にいっしょけんめい歩きました。落伍者ゼロしかも早い時間に続々帰還。奥様共々全員完歩。アトラクションを見ながらいただくお弁当やトン汁はまた格別。今年こそはあなたも挑戦してみたいかがでしょうか



第十九回 定時総会公開開催

日時 平成八年六月九日(日) 午後四時
場所 せきや第二ビル三階
懇親会費 四〇〇〇円
(往復ハガキでご案内済)

我が道を行く

私は日本列島の最北端、周囲が±kmしかない焼尻(やぎしり)島に昭和二年に生まれました。もちろん仕事と言えば漁師しかなく、春になると東北地方から出稼ぎの若者が大勢やってきて賑わったものである。

島の中学校を卒業すると小樽水産高校へ進み、そこで柳谷力さんと出逢い、ボクシングを始めました。当時の柳谷さんは北海道の代表として全国の色々な試合に数多く出場し、新聞を賑わしていた。先輩は中央大学に入学され、私もその後、昭和五年に憧れの中央大学(経済)に入学した。他の大学を蹴っての事だったから夢のように嬉しかった。神田ニコライ堂のすぐ近くに道場があり、早速その二階で寝泊まりの生活が始まった。午前中は湯島天神から上野不忍池をロードワークして帰り(部員吾名)一年生の作った朝食を終えたら隣の本校教室で授業を受け、夕方からは道場での練習。その明け暮れの毎日だった。

一年生の二学期から道場は富坂(現理工学部)に移ったが残りの学生生活のほとんどをその道場に隣接した部室で終えた。私は心臓があまり丈夫ではないらしく長距離を走ると息切れし

てしまい、いつも小さな試合(日大との定期戦とか)しか出してもらえず、大きな試合には一回も出られなかった。当時は各級に高校からのチャンプ級が大勢いたので無理もないことである。仲間の試合結果が新聞に載ったり、記事が出たりすると悔しさが募り「よし、今に見ている俺だつて」と歯を食いしばり努力に努力を重ね、修行に修行を積み大学を卒業後はボクシングのコーチとしてスタートした。(この間5年間勤めた一流企業を退社し、当時矢尾板貞雄の所属する中村ジムに入る) 昭和四年には独立、ジムの会長として第一歩を踏み出した。大年前に現在の国分寺に念願の「新日本サイトーボクシングジム」を設立(ジム開きの時には田中宗夫先生にもご足労を願ひ、ご挨拶を戴きました)、現在に至っております。これまでに日本ラシオンカーを主名誕生させたものの、残念ながら未だチャンピオンは出しておりません。マスコミ業界では、「アイデアマンの斉藤」としてTV、雑誌、スポーツ誌は勿論、一般誌にも数え切れないほど載ったり、賑わしたりしました。しかし、これからは一日も早くチャンピオンを誕生させ、そのニュースでスポーツを賑わすことを自分の胸に誓いつ

つ頑張ります。
そして全日本ボクシング協会副会長の要職も二年近くなりましたが、生涯「我が道を行く」を貫き通すつもりです。

新日本サイトー
ボクシングジム会長
斉藤 寛
(国立支部会員)

ボクシングジム訪問記

二月四日(日)中央線国分寺駅南口(第一勸業銀行隣)にある斉藤先輩のジムを訪問しました。ビルの階段を上り、二階のスチール製の扉を開けると、テレビなどでおなじみのリングで若者二人がドスン・ドスンと打ち会っている最中、リングの外で大きな声で「手を出せ、手を出せ、何をしている ばかもん」と怒鳴っている先輩の迫力に圧倒され、声をかけるのも気後れして、ただただ見ているだけ。夢中で打ち会っている二人がそのうちにフラフラとリングに座り込んでしまいました。それを見た先輩の顔にやっとなさしい笑顔が戻りました。

女性も大歓迎とか
堀田 勲 記

雑感

完治約一年の大怪我をしてしまいました。昨年八月十日に三多摩各市議会の議員野球大会で五試合目にセカンドからシングルフットでサードを駆け抜け勇躍ホームベースにスライディング、見事に右足の弁慶の泣きどころを骨折しました。

入院二十日間、幸い手術は免れましたがギブス三カ月余、義足のような装具を三カ月、少しづつ歩けるようになって三カ月現在に至っております。筋肉は情けないほどやせ細り、大変な怪我となつてしまいました。九カ月にして、やっと人並みに歩けるようになりましたが、未だ疲れると足を引きずる状態です。車椅子に一カ月松葉杖に三カ月余も頼る日々が続き、身体障害者の方々の方が続き、身体椅子の通行に道路の段差など不備な点を身をもって理解することが出来ました。

私は健康維持の大切さを政策の柱にして議員活動を続けてきました。超高齢化社会を迎えて健康第一で福祉のお世話にもならない事が本人はもとより家族にとつて最高の幸福であり、最大の社会貢献になりますと訴えてきました。文化とスポーツの振興こそが心と体の健康につながることを確信しているからです。

その私が大怪我をしてしまいました。何とも情けない状態ではありませんが、これを不幸中の幸いと考へ直し、怪我には不注意を厳しく自分に戒め、病気には、日頃から常に体を軽いスポーツで耐え、無理をしないで細心な注意をはらい、いつまでも健康で生涯現役を目指した生き方を模索していきたく願っております。どうか皆様も、ご自愛下さいますように。

国立市議会議員 風間 健

大 当 子 情 却 報

- ◎入学試験高校別合格者順位
- ① 桐蔭学園 二〇七
- ② 湘 南 九七
- ③ 城北埼玉 八七
- ④ 城 北 八一
- ⑤ 国 立 七九
- ⑥ 西武文理 七五
- ⑦ 川 越 七四
- ⑧ 厚 木 七三
- ⑨ 八王子東 七〇
- ⑩ 熊 谷 六七
- ◎就職企業先ベストテン
- ① 日本電信電話(株) 五五
- ② 東 京 都 庁 五〇
- ③ 大和ハウス(株) 三三
- ④ 国 税 庁 二三
- ⑤ (株)イトーヨーカ堂 二二
- ⑥ 山一証券株式会社 二一
- ⑦ 第一生命保険相互 一八
- ⑧ 法 務 省 一七
- ⑨ 大和証券株式会社 一四
- ⑩ 郵政省他三社 一三

平成8年度国立白門会予算案
自 平成 8年 4月 1日
至 平成 9年 3月31日

平成7年度国立白門会決算書
自 平成 7年 4月 1日
至 平成 8年 3月31日

科目	摘要	金額
収入		
年会費	3000×100名	300,000
総会費	4000×30名	120,000
特別収入	バザー等	30,000
前年度繰越金		722,315
合計		1,172,315
支出		
印刷費	ニュース・会員名簿	300,000
通信費	会員連絡他	80,000
会議費	役員会他	20,000
総会費		160,000
交際費	他支部総会祝金他	70,000
事務用品費		30,000
親睦行事費		100,000
大学寄付金		200,000
雑費		50,000
予備費		162,315
合計		1,172,315

収入の部			支出の部		
科目	決算	予算	科目	決算	予算
年会費	195,000	300,000	印刷費	4,583	300,000
総会費	80,000	120,000	通信費	58,900	80,000
寄付・祝金	63,000	50,000	会議費	7,750	20,000
特別収入	255,970	30,000	総会費	112,135	160,000
雑収入	443	0	交際費	36,000	70,000
前年度繰越金	465,777	465,777	事務用品費	4,974	30,000
			親睦行事費	13,533	100,000
			大学寄付金	100,000	0
			雑費	0	50,000
			予備費	0	155,777
			次年度繰越金	722,315	
合計	1,060,190	965,777	合計	1,060,190	965,777

平成 8年 5月26日

会計 高橋 雅幸 ㊟

会計監事 穴戸 勇之 ㊟

平成8年度活動予定

厚生部

- *秋の旅行会 (伊東) 10月下旬
- *くにたちウォーキング 10月10日
- *バーベキュー 11月下旬
- *新年会 1月19日

詳細検討中
お問い合わせ
厚生部長
丸本 74-7142

事業部

- *4月7日 さくらフェスティバル参加 (済)
- *11月3日 国立市民まつり参加

組織部

- *会員名簿の更新発行

広報部

- *国立白門会ニュース30号の発行

平成7年度活動報告

厚生部

- *8月25日 NTT見学 (霞が関) と夕食会
- *10月10日 くにたちウォーキングに参加
- *1月27日 新年会 (せきや第2ビル3階ホール)

事業部

- *4月2日 さくらフェスティバル参加
- *5月28日 総会 (せきや第2ビル3階ホール)
- *11月5日 国立市民まつり参加 (バザー)

組織部

- *学員の把握・会員名簿作成準備

広報部

- *国立白門会ニュース29号の発行

弘文出版「落語」1995.12.1刊33号より

円楽一門若手のホープ **三遊亭竜楽** 笑芸作家・演出家 畠山健二

竜楽は中央大学法学部卒業後、司法試験を志している最中、27才で円楽の門を叩いた異色の落語家である。持ち前の稽古熱心さによって実力も認められ、入門3年目の早さで「にかん飛切落語会」のメンバーにも抜擢され、遜色ない評価も受けた。そして平成4年真打昇進。最近の竜楽さんの活躍には目覚ましいものがある。国立演芸場の独演会で古典落後の登場人物を裁く「落語裁判」という企画も秀逸で興味深い楽しい内容であるし、上方の若手との浅草、木馬亭における東西交流会でも、東の若手の代表として着実に実力をつけてきており、頼もしい限りである。そして竜楽は本業の落語以外でも意欲的な行動をみせるようになった。出身校である中央大学では学員講師として活躍し、全国各地の商工会議所や法人会等で「笑いの効用」や「ビジネス会話術」と題した講演会も積極的に行っている。また日本放送作家協会、日本脚本家連盟に所属し、FM局の「暮らしのQ&A」という番組にも出演している。これらの活動は、彼の本来の姿である古典落語にも、卓越したマクラを創作する上において、非常に役立っていると思われる。これからは益々、活躍の輪を広げ、「この男は将来、落語界を背負って立つ男かもしれない」という私の直感の正しさを証明してほしい。

前国立市長 現国立白門会顧問

谷 清氏 勲四等旭日小綬賞受賞

おめでとうございます